

ジョイント

共同親権出版記念会

宗像 充

『子育ては別れた後も 改定版・子どもに会いたい親のためのハンドブック』

『引き離されたぼくと子どもたち どうしてだめなの？ 共同親権』

久米泰介

『ファーザー・アンド・チャイルド・リユニオン 共同親権と司法の男性差別』

2008年、子どもと引き離された一人の父親が、仲間とともに記者会見をしました。

自分と同じように子どもと引き離された親たちはたくさんいる、自分の苦い体験は、個人的な問題であるとともに社会的な問題、と「親子の引き離し」の解消を訴えたのです。

「親どうしが別れても親子が親子であるために」

共同親権運動、「実効支配」、ジャングルの掟、断絶性の原則

そして「選ばなくていい。パパの家、ママの家」

……連れ去り・引き離しの問題にスポットを当てる多くの言葉を生みだしました。

同じころ、社会の中で、女性同様、男性もまた割を食っている、と

アメリカにわたった学生がいました。

やがて男性の権利運動の著作を日本に多く翻訳しました。

二つの運動がクロスする単独親権／共同親権の問題、10年の時を経て

3つの著作を今、日本の男たち、そして離れ離れの親子たちに贈ります

■日時 2018年1月27日（土） 午後6時半～9時

■内容 著者トーク、社会評論社編集者、kネットの仲間、友人たちから
著書販売、懇親会（ワンドリンク軽食付）

■会費 1000円

★主催 共同親権運動ネットワーク TEL 0265-39-2067



宗像充 2007年に人身保護請求で子どもを引き離され、子どもと引き離された親たちの運動を組織、共同親権運動と名付ける。子どもと引き離された体験をつづった『引き離されたぼくと子どもたち』を2017年末に、『子どもに会いたい親のためのハンドブック』を大幅に改定・最新情報を盛り込んで増補した『子育ては別れた後も』を今回出版。

久米泰介 ウィスコンシンスタウト大学MS、アメリカの男性の権利運動の著作を翻訳、ワレン・ファーレル『男性権力の神話』、ポール・ナサンソン、キャサリン・K・ヤング『広がるミサンドリー ポピュラーカルチャー、メディアにおける男性差別』に続く、父親たちの危機を描く新刊を世に問う。マスキュリストの旗手。

